

1 学校教育目標

- 進んで学ぶ生徒
- 心豊かな生徒
- たくましい生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な学習内容を重視し、確かな学力を身に付けさせる学校 ○よりよい社会を創造する主権者としての知識・資質・豊かな心を身につけられる学校 ○学校情報を適宜発信し、保護者・地域の人々と協働しながら教育を推進していく学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ意欲と向上心をもち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒 ○思いやりの心、命を大切に作る心、規範意識、連帯感、自己肯定感、平和を愛する心など豊かな心をもった生徒 ○社会状況の変化に対応し、地域・社会に貢献できる力をもった生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の個性や多様性を把握し、生徒の可能性を引き出し、豊かな心を育んでいく教師 ○教育公務員として使命と責任を自覚して、情熱をもって職務に努める教師 ○「地域にある学校」を意識し、地域や保護者と連携しながら生徒の社会的自立に必要な力を育んでいく教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校〉

現状：教師・生徒の信頼関係を築きながら、きめ細かく丁寧な指導を行っており、落ち着いた環境である。

学校行事や学年行事、部活動、ボランティア活動には、生徒が積極的に取り組んでいる。

成果：「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業研究・授業改善に取り組んでいる。

学力向上に向けて ICT 機器の活用や「足立スタンダード」に基づいた授業実践、補充教室についての取り組みを工夫している。

規範意識や人権尊重、母校を大切にする意識はとても高く、生活指導面では落ち着いている。

特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応策について、外部機関と連携しながら実践することができている。

課題：①基礎学力の確実な定着と向上

②「思考力・判断力・表現力」を育成する授業実践

③特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒への対応

〈生徒〉

現状：純朴で明るく、学校行事や美化活動、ボランティア活動、部活動によく取り組んでいる。全体として、授業に臨む姿勢もよい。

成果：「伊興中でよかった」という生徒が88%。全体として落ち着いた授業が展開でき、生徒間のトラブルも減少している。

課題：①学習の必要性を認識して、基礎学力の定着・向上に努める。

②生徒自らが考え、学び、行動する力の育成。

③粘り強く取り組み、困難を乗り越える力の育成。

〈教師〉

現状：若手教師が半数以上で、活気があり、授業改善に意欲的である。生徒・保護者に寄り添って指導している姿が多く見られる。

成果：学習指導要領「主体的な学び」「指導と評価の一体化」についての区中研教科研修や小中連携研修、年次研究授業、校内研究授業、ICT 機器活用の取り組み等により授業改善の意識が高まっている。

- 課題：①基礎学力の定着と向上 下位層の底上げ
 ②「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
 ③学年セクトではない、学校全体としての組織的対応

〈保護者・地域〉

現状：保護者（PTA・おやじの会）や地域の方々は、創立以来本校に愛着があり、協力・支援体制が強い。開かれた学校づくり協議会委員の方には、生徒に活躍する場を提供していただくなど全面的な協力体制がある。

成果：PTA・おやじの会主催による「いこう彰風まつり」が10月に実施できた。また、開かれた学校づくり協議会も定期的を開催し、教員、生徒との意見交換ができた。12月には3年生面接練習をサポートしていただいた。

- 課題：①学校、PTA、開かれた学校づくり協議会との連携を引き続き図り、地域に根ざした学校をつくる。
 ②保護者の皆様に、学校公開や学校の様子を随時発信し、ご理解とご協力を頂けるような教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と社会的自立心の確立	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上と信頼される学校作り	○	○	○	○	○
4		○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
生徒の学習意欲を高めるとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、学力向上を図る。	令和6年度区調査通過率 60%	3科の平均通過率は64.3%である。	学年・教科別に見ると、2年の英語(44.2%)、3年の数学(42.5%)と低く、それぞれ久平均より10ポイント低い。これを同改善させるかが今後の課題である。	○	

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	放課後補充 学習	全学年 5教科で 補充を必 要とする 生徒	月・火・ 木・金曜 日 放課後 25分 1週間 を目安 に教科 毎に実 施	<p>【指導体制】教科担任、学年所属教員</p> <p>【取組みのねらい・目的】・各教科の単元テスト・小テストで理解が不十分な生徒に対して指導する。(5教科)</p> <p>・家庭学習 AI ドリルの未履修生徒に対して指導する。(5教科：月国 火数 水英 木社 金理)</p> <p>・各種コンテスト(英数国)を行い、基準をクリアできない生徒に対してAIドリルを活用した補充を行い、合格させる。</p> <p>【使用教材】AIドリル プリント教材</p>	各教科の単元・小テスト・各種コンテストの再テスト 活用数の点検(AIドリル) 教員・生徒アンケート	定期考査、単元テスト、小テストで基礎・基本問題の習得 テスト結果より、80%が目標値を通過する。	各種コンテストで合格点が取れたと60%の生徒が回答した。 AIドリルの取組については、行事等で実施できない時もあったが、それ以外は概ね実施することができた。 単元テスト・各コンテストでは、合格点に達するまで指導することが重要だが、取りこぼしの生徒が出たことは否めない。	【課題】AIドリルは、要領のいい生徒は、難なくやり終えてしまうやり方を知っており、抜け穴がある。教員の中には、従来どおりの紙のドリルにやらせる方が良いと主張する者もいる。どのように取り組ませるのがより良いやり方なのか、検討課題である。	○
継続	朝読書	全学年 朝読書	毎日 登校後 8時2 5分～ 35分 までの 10分 間	<p>【指導体制】学級担任</p> <p>【取組みのねらい・目的】・全学年10分間読書を行い、集中力と読む力をつける。</p> <p>学校図書館司書と連携し、図書館利用率を上げる。</p> <p>【使用教材】読書用本</p>	毎日の点検 図書館貸出冊数調査 教員・生徒アンケート	朝読書により、落ち着いて読む習慣と授業への集中力を高める。 学校図書館貸出冊数を月350冊以上。	朝読書はほぼ全クラスで取り組み、目標を達成した。 貸出冊数は、4～12月までの月平均267冊である。 授業でも図書室を活用するようになった。	【課題】国語科教員と図書館司書の関係は良好である。今後は、図書委員会も巻き込んで、図書室の効果的活用を検討することが課題である。	○

継続	家庭学習	全生徒 全教科	毎日 (土、日 も含む)	<p>【指導体制】学年所属職員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】AIドリルは20分程度でできる内容でワークブックを作成し、5教科で配信する。(月国 火数 水 英木社 金理)</p> <p>【使用教材】AIドリル ワークブック</p>	AIドリル活用 状況を学習進 路部で確認す る。	AIドリル未履 修者に対して は、放課後補充 教室で指導す る。	取組については、行 事等で実施でき ない時もあった が、それ以外 は概ね実施す ることができた。 生徒の56%が よく使用して いると回答して いる。	【課題】上記1 でも記したが、 要領のよい生 徒にとっては 軽い内容の家 庭学習あり、 今後もこのや り方を継続す るかどうかは 未定である。	△
継続	読解力向上	全生徒 総合的な 学習	年10回 程度	<p>【指導体制】学年所属職員</p> <p>【取り組みのねらい・目的】全学年新聞記事「天声こども語・天声人語」に取り組む。</p> <p>【使用教材】天声こども語 ノート(1年)、新聞記事 読解プリント(2,3年)</p>	毎回の点検 教員・生徒ア ンケート	天声人語ノー ト及び新聞記 事読解プリン ト提出率80%	学年単位で月に1 回程度実施し た。 生徒の66%が この取組を通 じて読解力の 向上に努めた とアンケート で答えた。	月に1度の書き 写しが、どれ くらいの効果 があるか、未 定。 教員の手間ば かりかかると いうのでは、 今後は継続さ せない。	△
継続	ICT機器を活用した足立標準の徹底	全学年・ 全教科	年間を 通して	<p>【指導体制】教務部(ICT推進委員会)で企画・運営</p> <p>【取り組みのねらい・目的】足立スタンダード推進委員会が中心となり、ICT推進委員会と連携して足立スタンダードのテーマを設定し、生徒一人一台のタブレット活用した校内研修会を実施する。全員一人1回の研究授業の実施。</p>	実施回数	全教員が最低 1回以上足立 スタンダード のテーマに沿 った研究授業 を実施する。ま た、ICT機器 を活用した授 業を公開する。	研究授業の回数 が、全員1回 という状況で はないが、多 くの教員はICT 機器を活用し ている。教員 は、各研究授 業時に、意識 的にICT機器 を活用した授 業を公開した。	【課題】さら に、多くの教 科で効果的な 活用の方法を 共有する。	◎

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成と社会的自立心の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒自らよりよい学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に登校するのが楽しいと思える学校」をつくる		アンケートで「伊興中の生徒でよかったと思う」と90%以上の生徒が回答する。	生徒アンケートでは、全学年の生徒のうち、87.3%の生徒が伊興中で良かったと回答している。	学年によって数値に多少の差があるが、8割以上の生徒が良かったと答えている。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権への配慮と豊かな心の育成	「相手の気持ちを受け止め、自分の考えを相手に伝えることができている」と、生徒の80%以上が回答する。	道徳の授業、校長講話など「心の教育」「人権について考える教育」を全教育活動で推進する。いじめアンケートやWEBQUでの早期発見と校内委員会を中心とした組織的な対応を継続する。	生徒の96%の生徒が、他の人を尊重し、いじめのない学校生活を送っていると答えている。 いじめ防止対策委員会を、毎週の生活指導部会内で開催している。	【課題】SNSの利用に関する嫌がらせ的な行為が散見される。道徳やセーフティー教室等で効果的指導を行う。	◎
社会的自立心の確立 凡事徹底	「挨拶する」「生徒会や委員会・係活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と生徒の90%以上が回答。	日常的なマナー・ルールの凡事徹底。「校則について」「委員会活動」など生徒会を中心に生徒が主体的に考え、企画し、運営できる生徒を育成する。	自分から挨拶していると答えたのは90%の生徒が回答している。また、生徒会や係活動に意欲的に取り組んだと83%の生徒が答えている。	よく挨拶をする生徒がほとんどである。	◎

重点的な取組事項－3		教師の指導力向上と信頼される学校作り			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の指導力向上と信頼される学校作り		アンケートで、90%以上の保護者が「子どもを伊興中に入れてよかったと思う」と答える。	保護者の回答中、87%が「子どもを伊興中に入れてよかった」と回答した。	否定的な回答は、9.7%であった。	○
自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
教師の学習指導力の向上	「分からないところを丁寧に教えてくれる」「生徒用タブレットをよく活用している」と80%以上の生徒が答える。	全教員が年5回以上の授業研究に参加する。校内研修日を設定し、「主体的・対話的で深い学び」や「ICT活用」をテーマに研修し、授業力向上を目指す。	生徒アンケート中、90%の生徒が、「分からないところを丁寧に教えてくれる」と答えた。g 比較的多くの（ほぼ全員）の教員がタブレットを活用した授業を行っている。	左記の回答結果と、成績や学力向上とどう結びついているか、検証が必要である。	○
教職員集団の育成と組織力の向上	教育活動や対外的な対応に、保護者へのアンケートで80%以上が満足していると回答する。	校務分掌の組織を見直し、学校全体で共通理解を図り、運営する。管理職・主幹教諭・主任教諭による若手教師のOJTを計画的に実施する。	教育方針や教育活動に満足していると答えた保護者は67%であり、そう思わないと答えた保護者は21%である。	他の項目に比べて、やや数値が低い。わからないと答えた保護者が12%いる。	○
保護者、開かれた学校づくり協議会、地域と協働した信頼される学校作りとの協働	「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者の80%が回答する。	開かれた学校づくり協議会・PTAと定期的に会議を持ち、学校と保護者・地域との連携を図る。各種たよりを定期的に発行する。保護者会、教育相談、協議会を計画的に実施する。	「学校は保護者や地域と一体になって教育活動を行っている」と保護者71%が回答した。また、開かれた	地域の行事に積極的に関わる体制作りが求められている。また、防災面での地域との連携も欠かせない。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(1) 生徒（生徒数は、学校要覧を参照してください。）

- ・大きな問題を起こす生徒や他校生徒との接触による問題行動がある生徒はいない。
- ・授業には前向きの姿勢の生徒が大多数。 ⇒ 授業は、正常に展開されている。
- ・学力面では、区調査の平均レベル。学力不振の生徒が、各クラスに一定数いる。
- ・中1勉強合宿は、通所型で実施 ⇒ 連携小学校の支援を受けて実施。対象生徒は25名。
- ・生徒会は、指導教員の尽力の下、改革に意欲的である。現在は、体育館開放や校庭開放の実現に向けて、試行をしている。
- ・部活動に意欲的に参加する生徒が多い。 ⇒ 成果が顕著な部 ①卓球部；都大会出場
②吹奏楽部；都コンクールA部門金賞 管楽合奏コンクール金賞、文部 科学大臣賞受賞 等
- ・いじめの報告はあるが、すべて解決済み。重大事態になるような案件はない。他方、SNSをめぐる生徒間のトラブルは発生しているが、その都度、指導している。

(2) 教職員

- ・教員の構成（管理職・再任用教員を含む）；平均年齢：39.82歳 30代以下の若い教員が半数以上を占める。
- ・校内研究推進主任（内藤主任教諭）を中心に、校内研修会を年間3回実施。テーマは、「足立スタダードに基づく授業改善」。精力的に研修を行い、各自が授業改善に努めている。

(3) 保護者・地域 等

保護者

- ・これまで、特に過度な要求要請を学校に寄せるような保護者はおらず、概ね、協力的。本校卒業生も少なくない。
- ・特に、運動会や作品展には、多数の保護者が来校したが、土曜授業時の授業参観や道徳授業地区公開講座に来校する保護者は少ない。
- ・保護者会や進路説明会には多くの保護者が来校し、関心の強さがうかがえる。
- ・PTAは、ここ数年の組織改革や運営方法の見直しにより、簡素化している。専門部活動はなく、行事ごとのボランティア参加方式。

地域等

- ・おやじの会が存在し、地域パトロール活動や行事の時に、警備や駐輪場対応などで、ボランティアとして参加していただいている。
- ・開かれた学校づくり協議会
委員は30数名。年間3回の委員会と、道徳授業地区公開講座の参加、行事ごとの参観、進路面接などご協力いただいている。
- ・地域（地区対や町会等）
地区対は、2つ（伊興と舎人）ある。また、学区域が広く、町会数が多いので、連携と調整が課題。
- ・「彰風まつり」

実行委員会（PTA、開かれた学校づくり協議会、おやじの会）が作られ、毎年10月最終の土曜日に開催されている催し。目的は、生徒に多様な体験を得る機会を提供すること。

【 今後の課題 】

（1）生徒

- ・学力の定着と向上
 - ⇒ わかった！できた！と実感できる授業の創造に全教員が個人的組織的に取り組む。
 - ⇒ 家庭学習の充実；現在はAIドリル（キュービナ）を家庭学習として行わせている。これが、学力向上に結びついているかは、検証が必要。家庭学習時間 < ゲームやSNSの時間
- ・魅力があり、安心できる学校・学年・学級づくり
 - ⇒ 「居心地の良い学級づくり」が不登校生徒を生み出さない最重要課題と考える。
 - ⇒ 不登校・不登校傾向生徒 全校で 43名（7.5%） 全く連絡が取れない生徒は0名。
 - ⇒ SC、SSW、チャレンジ、児相等、何らかの機関に繋がっているケースがほとんど。
 - ⇒ 彰風ルーム（別室指導教室）在籍（登録）生徒35名 利用生徒9～12名ほど
 - ⇒ 彰風ルームを水曜を除く4日間、教室を開いている。木曜は、給食を食べることもできる。
 - ⇒ SSRの設置も視野に入れて彰風ルームを運営していく。
- ・部活動
 - ⇒ 施設や指導教員等の不足をどう解決するかが課題。
 - ⇒ 部活動ガイドラインの遵守が前提条件。
- ・7組（特別支援学級）との交流
 - ⇒ 校舎の構造上の課題もあり、交流が不十分であり、7組から学ぶ機会を設けられていない。
- ・ボランティア教育・防災教育が足りない
 - ⇒ 生徒は求めているが、学校側の体制の不備と教員の抵抗感がある。
 - ⇒ 次年度の学校経営計画に盛り込み、学校の特色化を図る。

（2）教職員

- ・今年度末に異動する教員が多い。
- ・引き続き、校内研究研修を推進して、授業力を高めていくことが最重要課題である。

- ・ 80 h 超過勤務者を一人でも減らし、「働き方改革」を意識した勤務に変えていく。⇒ 業務の見直しや仕事の仕方等を意図的に行っていく。
⇒ ICT 機器をさらに活用し、校務軽減に努めていく。
- ・ 若手が多い職場なので、相互に学び合う職場風土をさらに育てる。研修ファースト主義。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・ 保護者・地域の皆様のご理解とご協力により、大過なく一年間の教育活動を展開することができました。感謝申し上げます。
- ・ 地域の祭礼や、地域の運動会等で生徒がお世話になり、感謝申し上げます。
- ・ 来るべき大災害に向けて、地域と学校・生徒と一緒に取り組む防災学習や合同避難訓練等、地域の防災の拠点として本校が役割を果たせるよう、生徒指導も含めて、地域の学校として取り組んでいきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）